

近江兄弟社高校（滋賀県）との交流

11月18日（金）朝の礼拝～10:00まで、研修旅行で来函したミッションスクール近江兄弟社高校（滋賀県）高2グローバルクラスの生徒の皆さんと高2英語科の生徒さんとの交流会を遺愛講堂で初めて持ちました。進行は遺愛宗教指導部長の井本先生でしたが、男子校、共学校、女子校を経験しているので、上手に生徒の皆さんをリードしていました。

実は、遺愛の講堂は、ヴォーリズ学園近江兄弟社高校を創設したウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏が設計し、1935年（昭和10年）に完成した礼拝堂です。国の登録有形文化財に指定されており、土曜日以外は毎朝講堂で礼拝が守られています。今回はヴォーリズの縁で研修旅行（3泊4日）の最終日の朝に遺愛を訪問して下さい、交流の機会を持つことができました。

第1部は、8時20分頃には講堂に着席していた近江兄弟社高校の生徒さん121名と共に礼拝を守りました。メッセージ担当は遺愛のカールソン宣教師でした。

第2部では互いに学校代表（遺愛は校長、近江兄弟社は生徒代表）が挨拶をし、近江兄弟社からは記念品のプレゼントがありました。次に遺愛聖書科の百武先生からパワーポイントで遺愛についての紹介がありました。それに対して近江兄弟社の漫才コンビ（生徒）が関西弁でヴォーリズの紹介をしてくれましたが、さすが高校生でも関西人、慣れたもので巧みな話術で笑いを誘っていました。

第3部では、両校生徒が入り混じってグループを作り、自己紹介、ご当地クイズなどを行いました。短い時間でしたが、とても和やかに、フレンドリーに交流が行われました。遺愛の生徒さんたちは、近江兄弟社の先生方・生徒の皆さんの関西弁を生で聞くことができ感動していました。

コロナが収まると近江兄弟社の皆さんは海外研修になってしまうと思いますが、今後も継続できればという声が遺愛生からたくさん出ていました。参加した遺愛の生徒さんの感想の一部を紹介します。「他校の人と交流する機会はあまりないから楽しかったです。時間があっという間でした。一緒にクイズをしたのが楽しかったです。方言がすごくいいなと思った。今まで講堂について知らなかった面も知ることができて学びがありました。他校の人と交流して、遺愛の良さをより知ることができたと思います。…また、こういう機会があったら参加して、他校の人との交流を深めていきたいです。」本当に良い交流ができたようです。実は交流した遺愛生の手元には、事前に近江兄弟社高校の生徒さんからお手紙が届いていたそうです。これがスムーズな交流につながったようです。

2022年11月19日（土）



遺愛の紹介



生徒交流



生徒交流